

# I118 グラフとオートマトン理論

## Graphs and Automata

担当: 上原 隆平 (Ryuhei UEHARA)

[uehara@jaist.ac.jp](mailto:uehara@jaist.ac.jp)

<http://www.jaist.ac.jp/~uehara/>

# **5. 集合と計数 (Set and Counting)**

## 5.1 基本公式

$$1. |A \cup B| = |A| + |B| - |A \cap B|$$

$$2. |A \times B| = |A| \times |B|$$

$$3. |2^A| = 2^{|A|}$$

# [参考] 包除原理 (inclusion exclusion principle)

$$\begin{aligned} \left| \bigcup_{i=1}^n A_i \right| &= \sum_{i=1}^n |A_i| - \sum_{i_1 < i_2} |A_{i_1} \cap A_{i_2}| \\ &+ \sum_{i_1 < i_2 < i_3} |A_{i_1} \cap A_{i_2} \cap A_{i_3}| - \dots \\ &+ (-1)^{n-1} |A_1 \cap A_2 \cap \dots \cap A_n| \end{aligned}$$

## 5.2 数え上げ

- ボール投げの問題 (balls and bins) を題材とする
  - 占有問題 (occupancy problem) と呼ばれ, 応用上きわめて重要
- ボールの数(# of balls) ...  $n$  個
- 箱の数(# of bins) ...  $k$  個

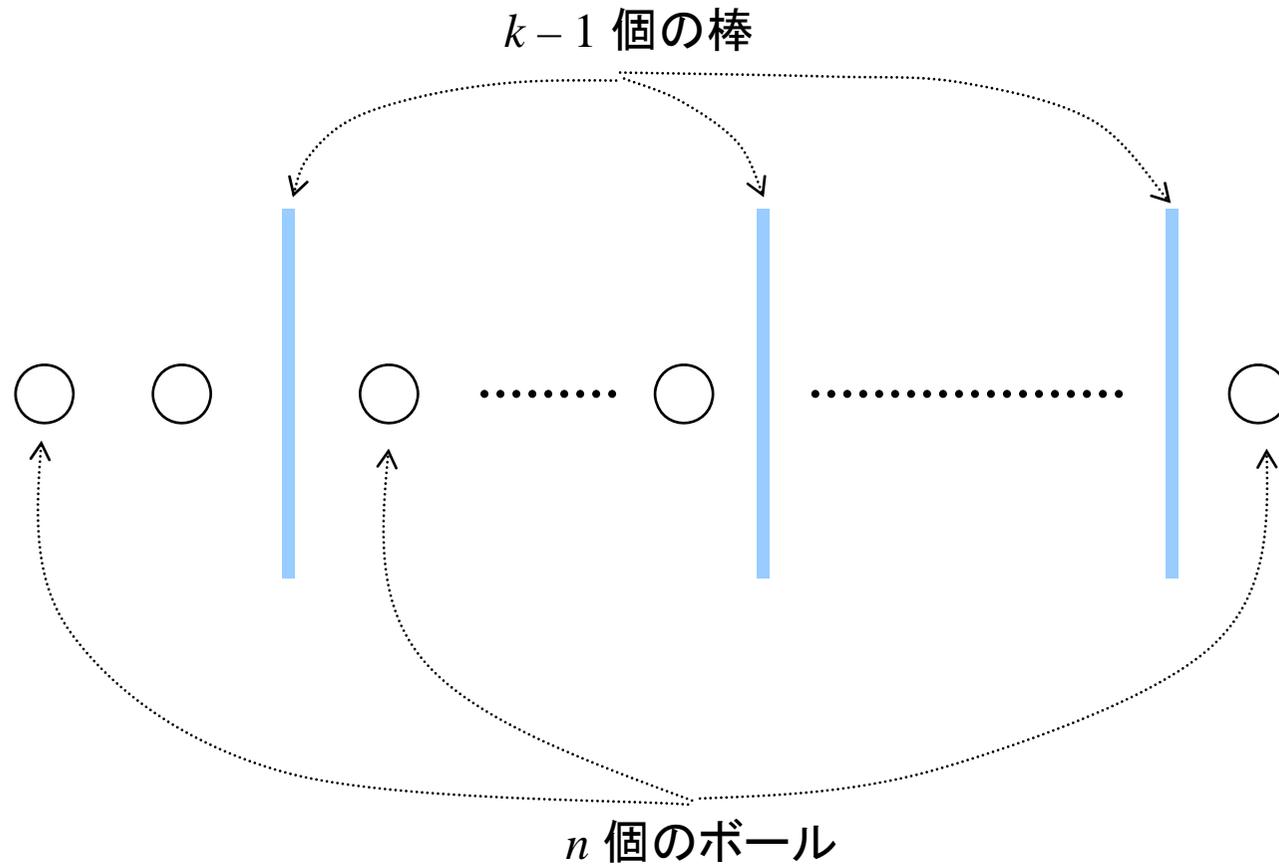
# 例1

- $n$  個の区別できないボールを, 1から $k$ まで番号付けられた箱に入れる方法は何通りあるか ( $k \leq n$ ). ただし, 空箱は許さないものとする.

- 答

$$\binom{n-1}{k-1} = \frac{(n-1)!}{(n-k)!(k-1)!}$$

# 例1の解説



$n - 1$  個のすきまに,  $k - 1$  個の棒を入れる場合の数と同じ

## 例2

- 1から $n$ まで番号付けられたボールを,  $k$  個の区別できない箱に入れる方法は何通りあるか ( $k \leq n$ ). ただし, 空箱は許さないものとする.

$S_k^n$  ... (第2種の)スターリング数

- 答

–  $k = 1, k = n$  のとき  $S_1^n = S_n^n = 1$

–  $1 < k < n$  のとき

$$S_k^n = S_{k-1}^{n-1} + kS_k^{n-1}$$

( $n$ 番のボールが1つだけ)  
+  
( $n$ 番のボールが他と同じ)

# 例3

- ボールにも箱にも番号が付いていない場合は？  
ただし、 $k \leq n$ で、空箱は許さない。

$P_k^n$  ...  $n$  の  $k$  部分への分割数, partition

- $P_k^n$  は,

$$n = n_1 + n_2 + \dots + n_k$$

を満たす整数列  $(n_1, n_2, \dots, n_k)$  の総数

ただし、 $n_1 \geq n_2 \geq \dots \geq n_k \geq 1$

- 答

–  $k = 1, k = n$  のとき  $P_1^n = P_n^n = 1$

–  $n > k$  のときは,

$$P_k^n = P_1^{n-k} + P_2^{n-k} + \dots + P_k^{n-k}$$

$n > k$  なら

$$P_k^n = 0$$

はじめに  $k$  個のボールを  
一つずつ  $k$  個の箱に  
入れておく。

あとは残りの  $n-k$  個の  
ボールを

- 1 個の箱に入れる場合

...

- $k$  個の箱に入れる場合  
を考える。

# 例4

- 最後のケース. ボールも箱も区別できる場合は?  
ただし, 空箱は許さない.
- 答.  $S_k^n$  を使えば簡単.  $k!S_k^n$

演習: 例1に  $n!$  をかけるのでは  
だめか? だめならなぜか?

# より進んだ話題...

- それぞれの問題で空き箱を許したケースは、より難しい(場合もある)。

– 例えば例1 ( $n$ 個の区別できないボールを  $k$  個の番号付けられたビンに入れる場合)で空き箱を許した場合は

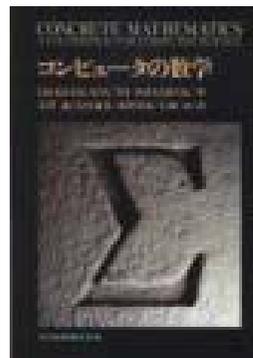
$$\binom{n+k-1}{k}$$

通り。

# おまけ

- こうした数列の解析には
  - 母関数(generating function)
  - たたみ込み(convolution)と呼ばれるテクニックが有効。

間違いなくバイブル



「理系にとって最強の萌え!」  
だそうです。

